タイトル：2023 年度中東☆イスラーム研究セミナー（第 24 回）
日時：2023 年 12 月 23 日（土）～24 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階マルチメディア会議室（304）

「ムガル朝におけるオランダ東インド会社の交易をめぐる権利について」
嘉藤慎作（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究機関研究員）

本セミナーには過去に研究員の立場でオブザーバー参加させていただいていましたが、今回はじめて報告者として参加をさせていただきました。本セミナーは、博士論文執筆予定者を対象として、報告者は主として自身の博士論文の一部を報告するという形式です。通常の学会報告とは異なり、報告者の博士論文の全体を見据えつつ、まさに進行中の生の研究内容について闊達に議論が行われます。こうした機会は大変貴重であり、その点に本セミナーの醍醐味があると感じます。また、世代や立場の近いほかの受講者の優れた報告を拝聴できるよい機会でもあり、大いに刺激を受けるところでありました。

今回は博士論文の中でも全体の前提にかかわる章の内容について報告をさせていただきました。本セミナーでは報告と質疑がそれぞれ 1 時間ずつと長丁場ではありますが、その分、通常の学会報告では難しい詳細な報告と立ち入った内容についても質疑が可能になります。私の報告においても、ほかの受講者の方と担当スタッフの先生方からたくさんの質問や指摘をいただくことができました。とりわけ、用語や分析の仕方について詳細な指摘をいただきました。私の研究は、いわゆるイスラーム地域のうちだけでは完結せず、その内側と外側との両方からの視点が必要になると考えています。そうした状況において、本セミナーでイスラーム地域を専門とされる先生方から集中的に様々な質問・指摘をいただけたことは、研究の質を高める上で大変得難いことでありました。

また、本セミナーにおいては、担当スタッフの先生の 1 人が「私の博士論文」と題して、自身の博士論文の執筆に関わる経験を共有してくださっています。博士課程進学以降、博士論文を提出するまでに体験した様々な出来事、そうした出来事が研究の方向性に与えた影響、そして最終的に論文を完成して提出に至る道筋は、個々に博士号取得者の誰もが辿ってきたところだと思われます。一方、他人のそうした経験全体を耳にする機会というのも珍しく、特に今まさに博士論文の完成に向けて悪戦苦闘している私自身にとっては大いに参考になりました。今回は後藤絵美先生がご自身の経験を共有してくださいました。計画が順調に進んだところ、研究の進展とともに逆に見えなくなったところをお話いただいたり、様々なライフイベントの中でどのようにバランスをとっていくのかといったことについて非常に実践的なアドバイスをいただくことができました。

本セミナーに参加して得た知見等を活かして、論文の完成に向けて邁進してまいります。最後になりましたが、担当スタッフの先生方に改めてお礼を申し上げます。